

## 奈良県立医科大学附属病院 新外来棟基本構想検討支援業務仕様書

### 1. 業務の目的

奈良県立医科大学（以下、大学という。）では、現在、医学部機能の一部を新しいキャンパスへ移転するプロジェクトを進めており、奈良県立医科大学附属病院（以下、「当院」という。）は現敷地において医療サービスを継続的に提供していくことになる。その一方、施設の老朽化や最新医療への対応のために施設整備が必要な状況となっていることから、現A棟の建て替えを検討するものである。本業務においては、地域ニーズや特定機能病院として担うべき役割を踏まえ、別添の「基本的方向性」に沿って新外来棟の機能・規模の設定を検討するものである。

### 2. 業務期間

契約締結の日～2023年3月31日

### 3. 業務内容

#### (1) 基本構想書（案）策定

##### ①当院が担うべき役割

- ア 特定機能病院として担うべき役割
- イ 臨床研究、トランスレーショナル・リサーチへの対応
- ウ 高度急性期医療機能と地域連携
- エ 新型感染症への対応
- オ 地域包括ケア奈良医大モデル実現に向けた機能
- カ 地域の健康増進への貢献
- キ 基幹災害拠点病院として担うべき機能
- ク 地域の医療人材育成
- ケ 職場環境整備と働き方改革への対応
- コ その他

##### ②担うべき役割を実現するために必要となる具体的な機能・規模の想定

##### ③新外来棟に整備する機能の設定

##### ④新外来棟の整備規模の設定

##### ⑤新外来棟整備に伴う他棟機能の再整理

##### ⑥現時点で想定される初期投資費用

#### (2) 現状把握及び資料作成

##### ①人口動態の将来予測

##### ②患者数の将来予測

##### ③診療報酬改定等をはじめとした国の医療政策

- ④地域医療計画、地域医療構想等の奈良県内の医療政策
- ⑤当院の経営状況
- ⑥当院の診療活動
- ⑦その他基本構想（案）を検討する上で必要となるデータ等の整理・分析

#### 4. 成果物

基本構想書（素案） 10部

基本構想書（素案）を含む使用したデータ一式 CD-ROM 1枚

上記、成果物を令和5年3月31日（金）までに納品すること。

#### 5. 業務の進め方

- (1) 8週間に3度程度に開催される（仮）新外来棟検討サブワーキング会議にて資料説明等を行い、各委員からの意見を確認し、構想に反映させること。
- (2) 当院事務部と連携し、（仮）新外来棟検討サブワーキング会議を運営し、提示する資料を定期的に調整のうえ作成すること。
- (3) 必要に応じて、当院の各種会議にて資料説明、意見聴取等を行うこと。
- (4) 新型コロナウイルス感染症の流行に応じて、対面での打ち合わせが困難となる事態も想定されることから、オンラインでの会議開催に対応すること。また、非流行期間であってもオンラインでの会議開催を妨げるものではない。
- (5) 令和4年10月頃に新外来棟に必要とされる機能、規模等をまとめた中間報告書を提出すること。
- (6) 今後、高さ制限緩和に向けた行政協議を行うことを予定している。必要に応じ、医業経営コンサルタントの視点から助言もしくは資料提供を行うこと。

#### 6. その他

- (1) 受託者は、本仕様書に定めるもののほか、当法人の会計規程、契約規程その他関係法令の定めるところに従わなければならない。
- (2) 当院は、業務実施過程で本仕様書記載の内容に変更が生じた場合は、受託者に協議を申し出る場合がある。この場合、受託者は委託料の範囲内において仕様書の変更に応じなければならない。
- (3) 本業務の実施に先立ち、秘密保持契約書を締結し、知り得た情報や資料等について許可なく第三者等に提供することを禁止する。
- (4) 本業務により得られた成果は、当院に帰属するものとする。当院は、本業務の成果品を、自ら使用するために必要な範囲において、随時利用できるものとする。
- (5) その他本業務を遂行するにあたり本仕様書に定めのない事項については、委託者と受託者協議の上、定めるものとする。